

見つけた！ フタバズキリュウ！！

こんなに大きな化石が出てきて、びっくりしただろうね。発見当てもとても大きなニュースになったのだ。



次の問いも
同じ展示場所

日本 館 3 階 北入口左 フタバズキリュウの解説展示



1

フタバズキリュウの名前

和名の「フタバズキリュウ」には、どのような名前の由来があるか？



- ・1968年、当時高校生だった鈴木直さんが福島県いわき市の大久川の双葉層群の地層で化石を発見した。その後の研究で、頭骨、胸部、ひれに既存の種には見られない特徴があることが確認された。
- ・発見した地層がある「双葉層群」と発見者の名前「鈴木」さんの名前にちなみ、学名がつけられる前から「フタバズキリュウ」と呼ばれている。
- ・その首長竜の新属新種の学名を提唱する記載論文が2006年に英国古生物学会誌に発表され、学名がつけられたことで新種であることが示された。



「フタバズキリュウ」には、どのような学名がつけられているか？

Futabasaurus suzukii



この展示の近くの映像を見てみよう。

フタバズキリュウの発見や研究について詳しく知ることができる映像なので、是非見せたい。

日本 館 3 階 北入口左 フタバズキリュウの解説展示



2

フタバズキリュウについて知ろう



「フタバズキリュウ」はどのような場所で発見された化石か？

福島県いわき市大久川の河岸で発見された化石である。展示にある写真から川の幅は約2mぐらいの小さな川で発見されたとわかる。



「フタバズキリュウ」が発見された地層では、他にどのような生物の化石が発見されているか？

フタバズキリュウの周辺からサメの歯の化石が60本以上見つっている。全長2mぐらいのネズミザメ類のものであると考えられている。



「フタバズキリュウ」はどの地質年代にどのような場所で生息していた生物だと考えられているか？

中生代白亜紀後期（約8500万年前）の海に生息していた海生爬虫類

首長竜の分類は
爬虫類である。

フタバズキリュウは恐竜によく間違えられますが、恐竜とは別の「首長竜」という仲間なのですよ。



次は標本を見よう



3 フタバズキリュウはどのような特徴がある生物なのだろうか

入口の頭上には実物大のレプリカ標本が、左手には実物の化石標本が展示されているよ。



スケッチをせずに、文章で特徴を記載しても良いだろう。



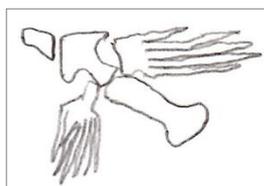
化石や頭上にある全身骨格をじっくり観察して、フタバズキリュウの特徴を書き出そう。



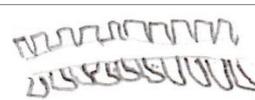
体の大きさの割に顔が小さい。鋭い同じ形の歯が上下にたくさんあり、すれ違うように噛み合っている。

首長竜とよばれるだけあり、首が長い。

スケッチをした場合の例



胸の中心にある骨の位置から左右に前あしが翼のように広がられている。



背骨は中心から上下に突起が対になって出ている。背骨の骨の数は尾までつながっていて、数えてみたら50本以上ある。

どこまでが体でどこから尾だか見分けがつかないぐらい骨が連なっている。



化石の形や大きさから、生きている時の様子を自由に想像してみよう

体が流線形をしている感じがするので、海の中でクジラのようにゆったりと優雅に泳いでいたのではないだろうか。首を曲げて後方を見ることができたと思う。



もし、現代にフタバズキリュウが生息しているとしたら、どのような環境が必要だろうか。想像してみよう。



感じたこと

わかったこと

考えたこと

解のない問いなので、自由な発想で考えさせたい。

- ・これだけ大きな体を維持するためには、豊富な食べ物が必要だと思うので、海の生物環境が豊かで、水質も綺麗で遠くまでの見通しが良くなければ生きていけないと思う。
- ・海は浅瀬よりも水深の深いところではないと、大きな体を思うように動かせないと予想するので、フタバズキリュウが移動するためには広大で水深の深い海の環境が必要であると考えられる。



新たな

学習指導要領「(2) 大地の成り立ちと変化」では「(イ) 地層の重なりと過去の様子」で「地層とその中の化石を手掛かりとして過去の環境と地質年代を推定できることを理解すること」とある。地層の生成年代としては、古生代、中生代、新生代の地質年代を扱うことになっている。フタバズキリュウが展示してあるフロアーには、地質年代別に化石標本が展示してあり、実物標本やレプリカなどの実物から様々な化石を観察することができる。これだけ多様な化石を観察できるのは国立科学博物館ならではの、フタバズキリュウが生息していたと推定される中生代の化石とも合わせて、その構造から環境や生活を想像させたい。

年

組

番

氏名